







小園 (熊本)



山口 (大隅)



松川 (局)



森本 (北薩)



小山 (局)



後藤 (局)



橋本 (福岡)

で、若年層の質上げに繋がったことを周知しても難しいとの事であるが、個人として問題解決が難しいものを全体で解決していく全体としてのメリットがあるという点を今後も粘り強く丁寧に説明していきながら、定期的に声かけを行ってほしい。

また、地本としても情報を共有し、協力しながら分会と一体となって取り組んでいきたい。

### その他

#### ◆大会日程について

橋本 (福岡分会) 今年の地本大会は、土日開催となっているが、青女の委員長会議が日月開催となっている。



議長として意気込む河本代議員(左:都城分会)と山口代議員(右:屋久島)

#### 「地本見解」

今年の地本大会から土日開催となったが、青年女性の開催とあわせて来年に向けて検討していきたい。

## 役員改選により新執行部体制が始動



新体制で力を合わせ取組の前進を

### 今後とも引き続き よろしくお願いいたします。

### 青女傍聴発言



青年女性委員会で事務局長の東です。よろしくお願ひいたします。

日頃より、地本をはじめ、各分会役員の方々は青年女性委員会に対して、ご指導ご鞭撻いただきましてありがとうございます。青年女性委員会を代表して発言させていただきます。私たち青年女性委員会は、昨

### 「若者らしく活発的に様々な活動を」

青年女性委員会事務局長 東 佑太

年7月に開催した第19回青年女性委員長会議で確認した方針に基づき、各分会が様々な活動・学習を展開する中で生活・職場実態改善と仲間の団結強化に向けて取り組んできました。

また、昨年は九州地本青年女性委員会の団結強化を目的とした「森人タオル」の販売を展開しましたが、販売枚数は694枚と、当初の予想を超える結果となりました。組合員の皆様、またご家族の皆様ご協力本当にありがとうございました。

また、現在は、各分会青年女性委員長のもとで、3年目

いて、各分会から浮き彫りになってきた課題等を出し合い、討議し、問題解決に向けて気持ちを率直に「声」にして総務企画部長に

訴えることができました。これからも生活・職場環境の改善に向けて継続して取り組んで参ります。

このためどのように活動しているかわからないなど不安な気持ちをもっている組合員がいる状況です。各分会執行部の皆様におかれましては、組合活動や日頃の業務等、大変お忙しい中だとは思いますが、青年女性委員会の活動にも目を向けていただき、引き続き青年女性委員へのフォローをよろしくお願ひいたします。

最後にありますが、これから青年女性委員会は「仲間を一人にしない」を柱に、若者らしく活発的に様々な活動を展開していくことに努めますので今後ともご指導のほどよろしくお願ひいたします。

## 「新執行部体制で更なる取組の前進を」

～第20回九州地本青年女性委員長会議～



新体制でも一枚岩となる

「全体集會に

「大衆諸行動として署長等

保として定例

の青女役員体

採用者の加入

新設「新規

の確立」と

といった様々

実態や意見が

報告されまし

た。

「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」



東新委員長の団結ガンパローで団結強化!!



惜しまれながら退任する3名の常任委員

7月13日(14日)に「九州森林労連会館」にて、「第20回九州地本青年女性委員長会議」を開催しました。今回の会議では、分会代表者及び傍聴参加者合わせて36名が参加しました。

冒頭、山形青年女性委員長は「国有林野事業の健全化や労働条件の改善、九州地本青年女性委員会の更なる組織体制の強化」について、議事が進められまし

初めに常任部より「2024年度開いの総括」、「2024年度行動経過報告」、「2025年度運動方針(案)」の提案がありました。質疑・討論では「若手職員が上位級の仕事をしている」「現在女性職員の採用数も増えているため、女性委員についても年齢制限を設けてほしい」「近年の猛暑による手当の新設」「新規採用者の加入対策」「分会の青女役員体制の確立」といった様々な実態や意見が報告されました。

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

常任部からは「集まり話し合う場の確保として定例会の実施」

# 各ブロックの総括討論

## 北部ブロック

井上代議員(大分)



北部ブ  
ロックを代  
表し、本大  
会で確認さ  
れた地本運動方針を支持する立  
場から総合討論に参加します。

現在の状況としては、要員問題が最重要課題と考えられます。組合員数は減少傾向になっており、仕事量としては、過去と比べてほとんど同じ仕事量で、生産量・販売量が年々増えており、樹木採取権制度等の仕事が増えてきている状況です。

また、定年の段階的引き上げ問題については、現在退職を希望する者も多くなっており、

要員問題の解決には、ほど遠く  
なっており森林事務所の空きが  
多く事務取扱の増加で森林官の  
欠員がある状況です。まず、署  
で交渉をし、地本・本部へ諸課  
題を解決していきましょう。

しかしながら、この状況で打  
開するには、役員体制等充実を  
図ることも重要です。その中で  
も林野労組が、解決してきたこ  
と「内々示の早期化」「引越費  
用の支払方法の改善」「中途採  
用の実現」「新賃金の引上げ」  
等さまざまな問題に対して組合  
員の待遇改善をしてきました。

そのためには、仲間と力を合わ  
せ働きやすい職場にするために  
も生活が豊かになるために、皆  
さんの力が必要です。

また、林野労組合歌にもある

ように、水・森林に対する意義  
ある仕事への自信を持って、誇  
りある職場であること。

このような状況ですが、国政  
の取り組みも必要です。来る第  
27回参議院議員選挙等では、気  
を引き締めて組織の総力を挙げ  
て立憲民主党を主軸に、比例区  
含む7名全員の勝利を勝ち取り  
国有林のあるべき姿に戻しま  
しょう。

最後に、何でも話し合い、仲  
間のことを思いやる気持ちが大事  
です。この難関を乗り越える  
ためにも、林野労組組合員一致  
団結していきましょう。

## 熊本ブロック

小園代議員(熊本)



平成25年  
から数える  
と今年で一  
般会計へ移  
行して11年目になります。

要員問題、賃金給与、各種手当  
の見直し、職場環境の改善等多  
くの課題は、一般会計移行後も  
継続課題となっており、なかな  
か前進に結び付いていない課題  
もあります。

まず、業務運営についてはど  
の分会でも慢性的な要員不足と  
なっており、職員配置は業務運  
営に影響が出るほど非常に厳し  
い状況に置かれています。組合  
員への労働荷重や若手組合員へ  
の業務配分、要員配置、ポスト  
グレードなど組合員一人一人の  
モチベーションにも影響を及ぼ  
しています。

また、60歳で退職か定年延長  
を選択する該当者が多く、欠員  
や事務取扱が増え、組合員に限

らずマンパワーが不足し限界が  
生じています。若年層の早期退  
職、40歳前後の中間層職員の不  
足、そして定年延長者は給与7  
割、それでいて求められる業務  
量は増加傾向。このような状況  
でモチベーションアップを図る  
のは至難の業でしょう。慢性的  
な要員不足に対して喫緊の対策  
が急務であり、これまでの取り  
組みをさらに発展させ、安心し  
て働ける職場環境の確保が必要  
です。

次に森林整備問題について提  
起し発言したところですが、  
「山づくり」については、当局  
をもリードする九州地本であっ  
てほしいと思っております。「山  
づくり」の理念を持った九州地  
本であると確信したところです。  
最後に、本定期大会で確認さ  
れた運動方針に基づき、中央・  
地本・分会が一体となり、職場  
内における諸課題の解決と、一

行政改革という名のトンネル  
の中にいて、国有林の2分化  
攻撃を受けながらも、組織全  
体で、一歩ずつ歩みを進め、  
2013年に全員での一般会  
計移行を勝ち取り、一端は出  
口にたどり着いた。

そして、その後、新たなト  
ンネル、しかもそれまでより  
も、ずっと長いトンネルの中  
にいて、仲間とともに走って  
いる、そんな状況ではなかろ  
うかと思っております。

走り続けましょう。走るこ  
とをやめたら、それこそ林野  
労組の存在意義はなくなりま  
す。林野労組ではなくなりま  
す。ですから、苦しくても走  
り続けましょう。これまで  
闘ってこられた先輩方、職場

で奮闘している全組合員のた  
め、そして、これから国有林  
を、林野労組を背負っていく  
若い人たちのため、ぜひ、分  
会においても組合員と手をつ  
ないで、歩みを進めてほしい  
と思います。

地本としても、組合員の顔  
が見えるきめ細かな組織運営  
に努め、組合員の要求を大  
事にしながら、最大限の努力  
をしたいと思っております。

そしてわたしたちが求める国  
有林のあるべき姿の実現に  
向けて、地本は、みなさんの  
先頭を立てて全力で取り組む  
ということをお誓い申し上げます。  
地本としての決意表明にさせ  
ていただきます。ともに頑張  
りましょう。

## 宮崎ブロック

岩本代議員(宮崎北部)



九州地本  
を支持する  
立場で発言  
させていただきます。

世界では、ロシアとウクライ  
ナ問題や、某国の大統領が世界  
を振り回そうとするのかイヤに  
なるほどの状況かと思っていま  
す。戦争終結が一番です。関税  
について8月に始動するとこの不  
安ばかりです。

また日本では、農林水産省が  
良くも悪くもメディアを賑わせ  
ています。米については、どこ  
での線引きが生産者、消費者双  
方が納得いく金額なのか。ガン  
リンや米を始めとする全体の物  
価が上がる。一方で給料が上がっ  
ても家計が苦しい。それに加え  
て私たちの職場の給料は公務員  
全体でも低い方なのでと感  
じてしまう今日。

今、組合でも取組まれている  
中で、国有林離れを防ぐために  
も55歳定年ストップを完全に止  
めて、60歳以上もせめて60歳時  
の給与をいくらかでも維持し、  
65歳まで安心して勤められるよ  
うになればと望むところです。

これからの世代、この職場入っ  
てくれた若い職員がしっかりと  
安心出来る中で働けるよう取組  
む必要があると考えます。

さて私は、今回の大会を最後  
にしようとして決めてここに臨み  
ました。

そんなことから組合への思い、  
そしてお礼として総括させて頂

きます。二つの旧組合がそれぞ  
れ解散し、一つの組合として誕  
生しました。第1回の議長を小  
薄さん(現鹿児島分会)とタツ  
グを組ませて頂いたのを覚えて  
います。そこに行き着くまで中  
央、地本、各分会でも苦労が  
あったと思います。統一後、当  
時の地本書記長と一度、意見の  
ぶつかりがありました。その  
後は連携していく事が出来まし  
た。

実は、この総括討論もやめよ  
うという発言も当時は内容が  
ありましたが毎年大会に参加し  
てこの総括討論に対しては、組  
合全体の意識、取組む姿勢、そ  
れから地本・中央への思いやモ  
チベーションの維持、向上に  
しっかりと繋がっているなど感じ  
るようになってきました。

正直、面倒くささはありません  
が、人生、面倒くさいことは沢  
山あります。それをひとつひとつ  
つ乗り越えることが人生だとも  
思います。

組合活動を通じて話すことが  
ありましたが、組合について一  
個人としてのメリットは何かと  
思う方もいるようですが、私た  
ちの行動は、職場、そして公務  
員全体の賃金の引上げや労働条  
件、職場環境の改善、また、労  
働安全等の確立、実効性を訴え  
ながら生命と健康を守るなどの  
取組を続けています。目に見え  
るまで時間を要する事案ばかり  
ですが、組合は言い続けなけれ  
ばならないもの、取り組み続け  
なければならぬものがあります。  
そして組合が目指し、結果  
を出すためには、まだまだこれ  
からも頑張る必要があると思っ  
ています。

さて、要員問題では、少し上  
向きの状況も見られますが、現

場で働ける人材、その現場を  
理解している人材が皆無に近い  
うえ、臨時も雇いづらい状況か  
なと思います。是非、現地を知  
る、案内できる常勤職員の採用  
を復活させたいものです。この  
ままでは、地元住民及び地元自  
治体からの信用は得られない林  
野組織になるのでは危惧して  
います。

青女常任委員会の皆さんに一  
言。これまで大会に参加する度  
に思っていました。各交渉での  
取組み、その中で訴える内容と  
力強さ、毎年2〜3泊泊まりで  
の大会対応。その頑張り、と  
ても有難く、感謝致していまし  
た。今後も力強く、芯が通った  
主張をされ、未来へ繋いでくだ  
さい。

最後にしますが、これからも  
時間は流れて行きます。すぐ先  
の時代になれば、今とは違う内  
容の要求も必要とされるかと思  
います。林野組織がある以上、  
組合もなくなりません。これか  
ら一丸となつてめげずに立ち  
向かって行きましょう。林野労  
組全体の今後更なる発展を祈念  
し、関係する多くの皆さま方に  
感謝します。これからも共に頑  
張りましょう。

私たちが  
職場を取り  
巻く環境は  
巻く環境は  
加齢によるもの依然として  
要員不足の状況により、空席ポ  
ストの増加に伴う業務量の増加  
や、40歳前後の中間層職員の不  
足に伴うポストギャップ等多く

の課題を抱えており、若手職員  
からは給与に見合わない、仕事  
に対する不満の声があり、そう  
いった声を無くしていくために  
コミュニケーションを取りなが  
ら不満解消を図っているところ  
です。

次に生活環境について、円安  
や物価の高騰、燃料単価の上昇  
など上がる一方です。春闘では  
民間企業は軒並みベースアップ  
していますが、物価上昇には全  
く対応できていない状況にあり  
ます。給与は、生活の基盤・労  
働意欲の上昇につながり全職員  
の早急な賃上げが必要と考えま  
す。

このような状況の中、組合に  
対する意識が低下している状況  
ではないかと危惧しています。  
当分会では未加入者はいません  
が、「ただ入っているだけ」・  
「誰かがやってくれるだろう」  
といった状況が見受けられます。  
そういった課題解決に向けた取  
組を進めていますが、思うよう  
に行かない状況ではないかと感  
じています。

しかし、今だからこそ、粘り  
強く、強固な組織として、課題  
解決に向けた取組を続ける必要  
があり、「組織態勢の確立」が  
重要ではないかと考えます。

本大会で確認された各各種  
方針を念頭に今後も中央・地本  
と連携し、全ての組合員を大事  
にししながら、一致団結した一枚  
岩となって、私たちが望む安  
心・安全な社会と健全な国有林  
野事業の実現に向けて、誇りを  
もって運動を展開していくこと  
を決意し、鹿児島ブロックを代  
表しての総括討論と致します。  
共に頑張りましょう。

鹿児島ブロック  
坂本代議員(沖繩)



私たちが  
職場を取り  
巻く環境は  
巻く環境は  
加齢によるもの依然として  
要員不足の状況により、空席ポ  
ストの増加に伴う業務量の増加  
や、40歳前後の中間層職員の不  
足に伴うポストギャップ等多く

の課題を抱えており、若手職員  
からは給与に見合わない、仕事  
に対する不満の声があり、そう  
いった声を無くしていくために  
コミュニケーションを取りなが  
ら不満解消を図っているところ  
です。

次に生活環境について、円安  
や物価の高騰、燃料単価の上昇  
など上がる一方です。春闘では  
民間企業は軒並みベースアップ  
していますが、物価上昇には全  
く対応できていない状況にあり  
ます。給与は、生活の基盤・労  
働意欲の上昇につながり全職員  
の早急な賃上げが必要と考えま  
す。

## 総括討論決意表明

地本執行委員長 加藤吉征



各ブロックから力強い総括  
討論をいただきました。

改めて、九州地本の抱える  
課題の重要性を再認識させて  
いただきました。同時に地本  
に対して指導性の発揮を求め  
られたものと考えており、身  
の引き締まる思いです。

この2日間の議論では、要  
員関連課題を中心に多くの発  
言がありました。そして賃金  
手当など、労働条件の最たる  
部分での発言もありました。  
喫緊の課題であることを再認  
識したところであり、当面す  
る具体の対応策にしっかりと取

り組んでいきたいと思いま  
す。職場では、要員が減少する  
一方で、事業量が増加、コス  
ト削減が求められ、その中で  
債務返済は確実にやらなけれ  
ばならない、こういった状況  
を見た時に、これ以上の組合  
員の業務負担を増やすわけに  
いかないと思っておりますし、  
新たな問題を引き起こすわけ  
にもいかないと思っております。  
改めて、この大会で確認した  
取組を進めるとともに、国有  
林野のあるべき姿を示させ、  
組合員が安心して働ける職場  
を作り上げる必要があると

思っております。議論では森  
林整備の話もありました。地  
本としてのスタンスは山づく  
りであり、これを基本に  
今後も取組を進めて行きたい  
と思っております。それから  
組織態勢強化について、全国  
一の組織率とはいえ、組織率  
が低下傾向にあります。一気  
には難しいものの、一歩一歩  
進めて行きたいと思ってい  
ます。

昨日からの議論を含めて、  
わたしたちを取り巻く課題は  
山積しています。言わば、閉  
塞感を感じる暗いトンネルの  
中にある、そんな状況ではな  
かろうかと思っております。

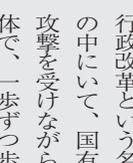
林野労組は、2006年に  
結成されましたが、当時から

行政改革という名のトンネル  
の中にいて、国有林の2分化  
攻撃を受けながらも、組織全  
体で、一歩ずつ歩みを進め、  
2013年に全員での一般会  
計移行を勝ち取り、一端は出  
口にたどり着いた。

そして、その後、新たなト  
ンネル、しかもそれまでより  
も、ずっと長いトンネルの中  
にいて、仲間とともに走って  
いる、そんな状況ではなかろ  
うかと思っております。

## 鹿児島ブロック

坂本代議員(沖繩)



私たちが  
職場を取り  
巻く環境は  
巻く環境は  
加齢によるもの依然として  
要員不足の状況により、空席ポ  
ストの増加に伴う業務量の増加  
や、40歳前後の中間層職員の不  
足に伴うポストギャップ等多く

の課題を抱えており、若手職員  
からは給与に見合わない、仕事  
に対する不満の声があり、そう  
いった声を無くしていくために  
コミュニケーションを取りなが  
ら不満解消を図っているところ  
です。

次に生活環境について、円安  
や物価の高騰、燃料単価の上昇  
など上がる一方です。春闘では  
民間企業は軒並みベースアップ  
していますが、物価上昇には全  
く対応できていない状況にあり  
ます。給与は、生活の基盤・労  
働意欲の上昇につながり全職員  
の早急な賃上げが必要と考えま  
す。

このような状況の中、組合に  
対する意識が低下している状況  
ではないかと危惧しています。  
当分会では未加入者はいません  
が、「ただ入っているだけ」・  
「誰かがやってくれるだろう」  
といった状況が見受けられます。  
そういった課題解決に向けた取  
組を進めていますが、思うよう  
に行かない状況ではないかと感  
じています。

しかし、今だからこそ、粘り  
強く、強固な組織として、課題  
解決に向けた取組を続ける必要  
があり、「組織態勢の確立」が  
重要ではないかと考えます。

本大会で確認された各各種  
方針を念頭に今後も中央・地本  
と連携し、全ての組合員を大事  
にししながら、一致団結した一枚  
岩となって、私たちが望む安  
心・安全な社会と健全な国有林  
野事業の実現に向けて、誇りを  
もって運動を展開していくこと  
を決意し、鹿児島ブロックを代  
表しての総括討論と致します。  
共に頑張りましょう。

鹿児島ブロック  
坂本代議員(沖繩)

